学校番号	314

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰの授業で学んだ基礎的な内容を発展させて、芸術科書道、とくに書道Ⅱでは、書道Ⅰは異なる書道の豊かな表現やより深い鑑賞について学びます。書道の伝統について、臨書や講義を通して学び、用具や用材の違いによる表現の違いを学びます。

・漢字の五書体（篆書・隷書・草書・行書・楷書）や仮名など様々な書体の名品を学習することをとおして、書の美しさや奥深さを体験し、筆の弾力を使いこなす技術を身につけ、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。

・身近に飾れる作品や好きな言葉などを素材として創作作品を制作することで、自己表現の達成感を味わい、書を愛好する心情を育みます。

2　学習の到達目標

① 書道の幅広い活動を通して、文字や伝統と文化について幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
② 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
③ 書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	書写と書道	・国語科書写と芸術科書道 ・正式書体・略式書体 ・用具用材について ・基本用筆	a: 姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 b: 書写と書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。 c: 積極的に表現技法を高めようとしている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート
	漢字の書(篆書)	・文字の成り立ち ・五書体の歴史 ・篆書の学習 ・漢字二文字作品制作 ・漢字二文字作品表具 ・相互鑑賞会	a: 篆書の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 篆書の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している c: 文字の成り立ちに興味を持ち、篆書の代表的な古典を知り、そのよさや美しさを味わっている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート
	漢字の書（隷書）・刻字	・隷書の学習 ・漢字二文字作品制作 ・刻字作品を作る ・相互鑑賞会	a: 隷書の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 隷書の基本的な用筆方法を理解し、刻字においては材料や道具の性質をふまえて表現を工夫している c: 文字の成り立ちに興味を持ち、隷書のよさや美しさを味わっている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート

2	仮名の書	・仮名の歴史 ・万葉仮名・変体仮名 ・連綿について ・古今和歌集臨書 ・団扇に下の句で創作	a: 仮名文字の選定、作品の構想、完成に至る創作活動ついて関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b: 仮名の表現の幅広さを理解し、仮名の良さや美しさを感じ取り、作品の意図を明確にし、表現を工夫している。 c: 互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート

	生活の中の書	・篆刻（小印）	a: 自分の名前の篆書調べを通じて書体の変遷について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b: 篆刻における分間布白を理解し、表現を工夫している。 c: 様々な石や銅の印影を鑑賞し、そのよさや美しさを味わっている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート
		・絵手紙作り 俳句を作り、それをはがきに書き、余白に顔彩で色を入れる （線質、字形、構成、言葉の工夫）	a: 日常生活のなかのさまざまな出来事を俳句にし、その言葉をいかにして書として表現するか、書と画の調和について理解を深めている。（知） 書の伝統を踏まえ、目的や用途、意図に応じて創造的に表現する技能を身に付けている。（技） b: 書の表現技法を活かした構成を考え追及して、他者の作品も書の構成要素と照らし合わせて、捉えている。（鑑） c: 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする創造的な表現の学習活動に主体的に取り組み、他者の優れた点を評価し鑑賞の活動に取り組もうとしている。（鑑）			

3	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書（平仮名の連綿と漢字による表現） ・作品制作 ・作品制作の表具	a:漢字と仮名の学習をふまえて、自分で選んだ言葉を素材として、自己表現している。 b: 漢字や仮名の臨書で身に着けた、筆使いや作品構成をふまえて自ら構想し、表現を工夫している。 c: 互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 レポート

※表中の観点について

a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度